序

熊本県知事　蒲島郁夫

本県の農業に関する試験研究機関は、明治４４年に農事試験場が飽託郡出水村国府（現在の熊本市菅原町）に創設されたことに始まり、幾多の変遷をたどりながら今年で１００周年を迎えました。

この永い間、農業者、関係機関・団体をはじめ、県民の皆様のご支援とご協力をいただきながら、本県の農業の発展を支える機関として、今日を迎えることができたことに対し、深く感謝を申し上げます。

本県では、山間部から海岸島嶼まで変化に富んだ豊かな自然条件のもと、全国有数の食糧供給基地としての重要な地位と多彩な農産物産地が築きあげられております。これまで、当試験研究機関では、一世紀にわたり、食料の増産、高品質・安定生産など時代の要請に応えるため、たゆみない技術革新の中心的役割を担いながら、本県農業の発展に寄与して参りました。

現在、本県では、「魅力的で、豊かな基盤を持ち、世界に飛躍する農林水産業」をめざし、個性・こだわりの農産品づくりや県産品の認知度向上、担い手の育成等を推進し、生産数量の拡大や販売単価の上昇、コスト低減により、農家の安定した所得確保を推進しています。

こうした「稼げる農業」づくりの基盤となるのが試験研究であり、常に地域農業の課題を踏まえ、未来を拓く技術開発に取り組んでいくことが極めて重要であると考えています。

特に、最近では水稲「くまさんの力」、イチゴ「ひのしずく」、デコポン「肥の豊」やいぐさ「ひのみどり」の育成、幻の地鶏「天草大王」の復元、またトマト黄化葉巻病防除対策の確立等を通じて、本県のめざす「稼げる農業」の実現に貢献しています。

この１００年の節目にあたり、当試験研究機関においてこれまで積み重ねてきた貴重な技術や知見を将来に生かしていくために、この記念誌を取りまとめました。本誌が、新しい技術開発への挑戦と、これからの本県農業の発展・農村の振興に貢献できる試験研究の方向性を見い出す一つの道標になれば幸いに存じます。